

—— 日 食 講 話 (4) ——

歴 史 上 に 有 名 な 日 食

山 本 一 清

世界各國共に日食の記録は多い。殊に、皆既日食は、まひるが突然として夜間になつて了うほどの大事件であるから、之れを誰でも「知らなかつた」などと言つてすましてゐられるものでない。必ず此れは記憶され、又記録されて傳へられる筈のものである。近年は又、純學究的の意味に於いても日食の重要さは加はつてゐる。

下に、先づ、世界各國の歴史に残されてゐる有名な日食のリストを一覧表として掲げる。そして最近の皆既日食までを含む。——尤も、天空に於いて現實に行はれた日食現象は此の他にも非常に多い。日食そのものの一覧表として最も權威あるものは、言ふまでもなく、奥國の天文家 Th. R. v. Oppolzer オボルツア博士が ヴイン學士院の記念出版（天然理學部）第52巻に Canon der Finsternisse 「日月食表」として1887年に發表したものがあつて、之れは西暦紀元前1207年から同紀元2163年までの間にある全部の日食8000個と月食5200個の要素を網羅し、尚ほ皆既日食線や金環食線の略地圖を添えたもので、食學上の最大權威書であるが、下に掲げるのは、其のうち、歴史上に有名なもののみを選んだものである。

I. 古 代 の 日 食

（皆、太陽暦日はユリウス暦で表はす）

B. C. 2137年 十 月22日	〔夏書〕仲康五年、義氏と和氏豫言を怠り罰せらる。
1070年 六 月22日	バビロニヤ
1063年 七 月31日	バビロニヤ 「シワン」の月26日？
791年 六 月24日	金 環 食
763年 六 月14日	アシリヤのニネベ市〔アモス書8の9〕
689年 一 月11日	〔イザヤ書38の8？〕
648年 四 月 6日	Thasos
585年 五 月28日	タレス豫言す〔Herodotus 1の54〕〔Pliny 2の4の5〕
557年 五 月19日	ラリサ？
431年 八 月 3日	ツキザデス
400年 六 月21日	Ennius
310年 八 月14日	カルタゴ軍のスラクサ攻撃戦中
720年 二 月14日（隠公 3年 二 月己巳）	「春秋」所載最初の日食

- B. C. 709年 七 月 9日 (桓公 3年 七 月壬辰朔既)
 695年 十 月 3日 („ 17年 十 月朔)
 676年 四 月 8日 (莊公18年 三月)
 669年 五 月20日 („ 25年 六月辛未朔)
 668年 九 月 3日 („ 26年十二月癸亥朔)
 664年 八 月21日 („ 30年 九 月庚午朔)
 655年 八 月12日 (僖王 5年 九 月戌申朔)
 648年 三 月30日 („ 12年 三 月庚午)
 626年 一 月29日 (文正 1年 二 月癸亥)
 612年 四 月21日 („ 15年 六 月辛丑朔)
 601年 九 月14日 (宣王 8年 七 月甲子皆既)
 599年 二 月28日 („ 10年 四 月丙辰)
 575年 五 月 3日 (成王16年 六 月丙寅朔)
 574年 十 月16日 („ 17年十二月丁巳朔)
 559年 一 月 8日 (襄王14年 二 月乙未朔)
 558年 五 月25日 („ 15年 八 月丁)
 553年 八 月25日 („ 20年 十 月丙辰朔)
 552年 八 月14日 („ 21年 九 月寅戌朔)
 550年十二月30日 („ 23年 二 月酉朔)
 549年 六 月13日 („ 24年 七 月甲子朔)
 546年 十 月 7日 („ 27年十二月乙亥朔)
 535年 三 月12日 (昭王 7年 四 月甲辰朔)
 527年 四 月12日 („ 15年 六 月丁巳朔)
 525年 八 月15日 („ 17年 六 月甲戌朔)
 521年 六 月 4日 („ 21年 七 月壬午朔)
 520年十一月17日 („ 22年十二月癸酉朔)
 518年 四 月 3日 („ 24年 五 月乙未朔)
 511年十一月 8日 („ 31年十二月辛亥朔)
 505年 二 月10日 (定王 5年 三 月辛亥朔)
 498年 九 月17日 („ 12年十一月丙寅朔)
 495年 七 月17日 („ 15年 八 月庚辰朔)
 481年 四 月14日 (哀王14年 五 月庚申朔)

II. 中世の有名な日食

(1582年まではユリウス暦、其の以後はグレゴリオ暦の太陽暦を用ふ)

- A. D. 237年 四 月12日
 360年 三 月⁷4日
 418年 七 月19日 イタリヤ
 484年 一 月14日
 538年 二 月15日 部分食
 540年 六 月12日 ”
 594年 七 月23日
 603年 八 月12日
 628年 四 月10日 日本の最初、推古天皇36年三月2日
 639年 九 月 3日

664年 五 月 1日	
733年 八 月14日	金環食
764年 六 月 4日	”
787年 九 月16日	”
842年 十 月 7日?	
878年 十 月29日	
885年 六 月15日	
957年 七 月20日	
968年十二月22日	コルフ島にて
1023年 一 月24日	
1113年 三 月19日	
1133年 八 月 1日	
1140年 三 月20日	英國ロンドンにて見ゆ
1183年十一月17日 (壽永2年閏十月1日)	源平水島の戦中
1185年 五 月 1日	
1187年 九 月 4日	北歐
1191年 一 月23日	金環食
1241年 十 月 6日	中歐
1330年 七 月16日	
1415年 六 月 7日	獨佛
1424年 六 月26日	
1433年 六 月17日	
1485年 三 月16日	スペイン
1503年 七 月20日	
1530年 九 月21日?	部分食
1544年 一 月24日	
1560年 八 月21日	スペイン
1567年 四 月19日	金環食・ロマ
1598年 三 月 6日	
1601年十二月24日	ノルエにて金環食〔Regiomontanus〕
1605年 十 月12日	金環食?
1639年 六 月 1日	” Bouillaud 観測
1652年 四 月 8日	
1699年 九 月24日	金環食 Tycho 観測
1706年 五 月12日	カシニ観測, “光冠”を黄道光に 歸す. Stannyan 紅焰を見る.
1715年 五 月 3日	
1717年 十 月 4日	ハレイ 光冠と紅焰とを見る. 但し 日月の所屬不明. 米國?
1724年 五 月22日	
1733年 五 月13日	Vassinius 紅焰を再發見. スカンデ ナビヤ
1737年 二 月18日	金環食. 近代的観測の最初. McLaurin スコットランドにて見る.
1748年 七 月25日	” 英獨

1764年 四月 1日
 1766年 二月 9日
 1778年 六月 24日
 1780年 十月 27日
 1791年 四月 3日
 1806年 六月 16日
 1820年 九月 7日
 1821年 三月 4日
 1831年 二月 12日
 1834年 十一月 30日

英 スキーデン
 南阿
 スペインの Ulloa 將軍 “Baily 粒” を見る。
 米國 ハーバード 大學 遠征 “Baily 粒” を見る。
 金環食 北米 東部
 米國
 金環食 ノルエー 獨
 スマトラ 島
 金環食 米國
 米國

新刊紹介

理學士 鈴木敬信氏著 “宇宙” 東京 恒星社 ¥ 3.20

東京科學博物館の天文部主任として既に廣く知られてゐる鈴木理學士が“古代宇宙觀から膨脹宇宙說まで”各時代の天文學者が企圖したさまざまな天體宇宙觀を極めて親切に順序よく書かれたのが此の書である。四六版ながら本文 569頁、それに索引18頁を添えた堂々たるもの、内容に98枚の寫眞や圖版と、13種のモダンな表もあつて、之れが洋書ならば今どきザツト15圓も取られるのだが、僅かに3圓内外で手に入るとは日本書の有難みである。鈴木氏の文は誠に読み易く、學術語も二三を除けば極めて妥當なものを用ゐ、甚だ適切である。尤も此の書は宇宙論史を主題としてゐるため、内容が實用天文學にわたつてゐないのは承知の上で讀まねばならぬ。元來、天文學の主な目的は「宇宙の研究」にある。故に此の書の内容こそは最も本格的な天文學そのものである。經緯度や時刻の研究は要するに天文學の副産物であるのだから。(山本)

晝間見える星

拜啓 大へん好い時候になりました。ヴェネナスも光輝いよいよ盛んになりました。私は此頃肉眼にて晝間見て居ります。昨日は午後零時半まで見ました。晝間星を見て居ると思ふと浮世ばなれがします。天文臺でも誰か見られませんか、光度負4.3等の時にはよく見えます。朝明るくなる頃から一時間位づゝ間をおいて段々西に動くのを望見するのです。午前九時半頃には南中になります。此度は何等星まで晝間肉眼觀望が可能かを知りたいと思つて居ります。

10月6日

静岡 藤田 六郎